

大菩薩嶺

東京電機大学ワンダーフォーゲル部で2年後輩であった今村君がマイタビで大菩薩に行くと言ってきたので私も行くことにした。彼は60歳で定年になって以来今夏まで中国吉林市(旧満州の一部)の大学に留学していたという変わり者である。ジジイの留学生を受け入れるなんて中国は懐の深い国ということであるが、さすがに70歳過ぎになると寛容さにも限界があるようである。最も彼に言わせると、大学では学ぶことの他に、中国人の日本語学習希望者に対して教えることもしていたので、世話にもなったがお返しもしているということである。春節などの折に日本に帰った時に40万円ほどのお金をもっていけば、日本語教師としての給料と合わせると1年間の生活費には困らなかったようである。日本に帰ってきたら物価が高くて困っているとのことだ。

この大菩薩嶺のコースは2008年12月にも来たことがある。しかし今回は雪山に慣れるためにアイゼ



ン試しのために来た。急な登り降りもないし長くもないので最近衰えが目立つ俺でもなんとか歩けた。今村と二人で登り始めから終わりまで無駄話をしっぱなしで歩いたのも気楽にしてくれた原因と思える。同じクラブにいた人たちの



消息や、お互いの趣味のクラシック音楽や映画の話ばかり聞かされて周りの人たちはさぞ迷惑であったであろうと思われる。いつもはペチャクチャ話しながら歩くバーサマ方が今回に限って口数が少なかった。

今回の参加者は男 9 名で女 13 名。いつもよりややジジイ比率が高い。ツアーリーダーはメインがジイサマ若手の宮崎さんでサブはツアー経験 3 回目という本物のフレッシュウーマンの一柳（ひとつやなぎ）という珍しい名前の美人であった。